

| | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------|---------|---|-------|------|
| 科目名 | 実習・演習3 (レコーディングエンジニア専攻) | | | | | | | 年度 | 2026 |
| 英語科目名 | Training and exercises 3 | | | | | | | 学期 | 前期 |
| 学科・学年 | 音響芸術科 レコーディングエンジニア専攻 2年次 | 必/選 | 必 | 時間数 | 180 | 単位数 | 6 | 種別※ | 実習 |
| 担当教員 | 新保正博・栃木哲也 | | 教員の実務経験 | | 有 | 実務経験の職種 | | エンジニア | |
| 【科目の目的】 マイクロフォンの適切な使い方をマスターする。現場さながらのスタジオワークを通して、準備・セッティング・チェック・音作り・レコーディング・オーバーダビング・ミックスといった様々な項目をグループワークを通して、各々の役割も把握する。またエンジニア以外のスタッフ、ミュージシャンとも適切なコミュニケーションが取れる。楽器やアーティストの声を聞き分けて適切なエフェクト処理を行い、ミックスを完成させる。 | | | | | | | | | |
| 【科目の概要】 演習においては講義形式でスタジオ機器・スタジオワーク・音作りについて学ぶ。スタジオワーク授業回によってアーティストとともに実習する。その際はアーティストの立場や作りたい音をよく考え、アーティストに信頼されるエンジニアになるための姿勢も学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 A：スタジオ機器の理解・活用 B：アーティストやスタッフとの円滑なコミュニケーション C：素早く正確なセッティング D：エフェクターの活用と理解 E：ミックスダウンとマスタリングの技術向上 | | | | | | | | | |
| 【授業の注意点】 この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。 | | | | | | | | | |
| 評価基準＝ルーブリック | | | | | | | | | |
| ルーブリック 評価 | レベル5 優れている | レベル4 よい | レベル3 ふつう | レベル2 あと少し | レベル1 要努力 | | | | |
| 到達目標 A | スタジオシステム全体を理解している | Pro Tools とミキサー卓を活用できる | ミキサー卓を活用できる | パッチベイが使える | システムがわからない | | | | |
| 到達目標 B | 録音の流れを先読みできる | 音のNGに気が付き修正できる | 楽譜が追える | 歌詞カードが追える | ミュージシャンと会話できない | | | | |
| 到達目標 C | 数人で4リズムセッティング・回線チェック・CUE送りができる | 数人で4リズムセッティング・回線チェックができる | グループで4リズムのマイクセッティングができる | グループで特定楽器のマイクセッティングができる | セッティングができない | | | | |
| 到達目標 D | 目的にあったエフェクトを使える | ミュージシャンとエフェクト音を共有できる | 適切なコンプレッサーが使える | 適切なリバーブが使える | エフェクターのセッティングができない | | | | |
| 到達目標 E | 公開できるレベルのミックス、マスタリングが出来ている | 公開できるレベルのミックスが出来ている | 音色・音量のバランスが取れる | 音量のバランスが取れる | 音が並んでいるだけ | | | | |
| 【教科書】 音響映像設備マニュアル、適時プリントを配布する。 | | | | | | | | | |
| 【参考資料】 特になし | | | | | | | | | |
| 【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づいて行う。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。 | | | | | | | | | |
| ※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。 | | | | | | | | | |

| 科目名 | | 実習・演習3 (レコーディングエンジニア専攻) | | | 年度 | 2026 |
|------|-------------------|--------------------------|----------------------|---|------|------|
| 英語表記 | | Training and exercises 3 | | | 学期 | 前期 |
| 回数 | 授業テーマ | 各授業の目的 | 授業内容 | 到達目標=修得するスキル | 評価方法 | 自己評価 |
| 1 | 1年次の復習 | スタジオ作業の基本確認 | 1 エンジニアの知識確認 | 電気・様々なオーディオフォーマット・PC関連の知識がわかる。 | 3 | |
| | | | 2 マイクロフォンの確認 | 学内にあるマイクロフォンの機能と種類がわかる。 | | |
| | | | 3 マイクロフォンの紹介 | マイクロフォンのメーカー、代表的なマイクがわかる。 | | |
| 2 | マイクセッティング | マイクrohンのセッティング方法の確認 | 1 マイクロフォンの選定 | ドラムとピアノに合わせたメーカー別、目的別に班分け、自分のベストセッティングができる。 | 3 | |
| | | | 2 ドラムの音源をつくる | 様々なマイク、セッティングにより、単音を収録できる。 | | |
| | | | 3 ピアノの音を比べる | 様々なマイクセッティングにより、ピアノの音を収録し、聞き比べることができる。 | | |
| 3 | ミキサー卓の理解 | ミキサー卓の理解 | 1 アナログ卓復習 | SSL社 4000E (SSLのブロックダイアグラムを理解) が使える。 | 3 | |
| | | | 2 アナログ卓復習 | スタジオのアナログ卓の操作方法について復習し、操作できる。 | | |
| | | | 3 デジタルシステム卓復習 | SSL社 DUALITYの操作方法を通してデジタル卓について復習し、操作できる。 | | |
| 4 | アーティストとのコミュニケーション | アーティスト側の理解 | 1 アーティストの立場を研究 | スタジオ、ライブ、パートごとのモニターの目的がわかる。 | 3 | |
| | | | 2 アーティストの立場を研究 | モニターの研究。アーティストに合わせたモニターづくりができる。 | | |
| | | | 3 リズムセッティング1 | バンドレコーディングのセッティングがスムーズにできる。 | | |
| 5 | リズムセッティングのマスター | 円滑なバンドセッティング | 1 リズムセッティング2 | セッティングと回線チェックが素早く、正確にできる | 3 | |
| | | | 2 バンドセッティング1 | いくつかのバンド編成をもとに回線図、準備図を書ける。 | | |
| | | | 3 バンドセッティング2 | マイクroフォンの選び方、セッティング方法、が適切にできる。 | | |
| 6 | ボーカル録音 | ボーカルの録音と処理の確認 | 1 ボーカルダビングセッティング | 指定された音源へスムーズにボーカル録音ができる。 | 3 | |
| | | | 2 ボーカルダビング・エディット | 録音したボーカルを整音できる。 | | |
| | | | 3 ピアノの音作り | ピアノの音のエフェクトを駆使して音作りできる。 | | |
| 7 | ギター録音 | ギターの音作り | 1 ギターの音作り1 | 楽器に付いての知識、マイク、ラインの違い、各種音の特徴についてわかる。 | 3 | |
| | | | 2 ギターの音作り2 | ギターの音のエフェクトを駆使して音作りできる。 | | |
| | | | 3 ギターの音作り3 | エレキ、アコースティック、様々なマイク、録りかたがわかる。 | | |
| 8 | アーティストとのコミュニケーション | アーティストとのコミュニケーション確立 | 1 アーティストとのコラボレーション1 | レコーディングエンジニアとしての仕事の発掘、バンドとの関わり方がわかる。 | 3 | |
| | | | 2 アーティストとのコラボレーション2 | 様々なバンドのミックスを考察する。メーカーとの関係もわかる。 | | |
| | | | 3 レコーディング | 楽曲レコーディングがスムーズにできる。 | | |
| 9 | バンドレコーディング | アーティストとのコラボレーション | 1 R科バンドレコーディング1 | フォーリズムのレコーディングができる。 | 3 | |
| | | | 2 R科バンドレコーディング2 | 録音データのエディット・ミックスができる。 | | |
| | | | 3 オーバーダビング | 録音された音源へ様々な音を適切にオーバーダビングできる。 | | |
| 10 | バンドレコーディング2 | アーティストとのコラボレーション | 1 バンドセッティング復習 | 4リズムのセッティングを細かく考察する。グループごと素早くセッティングができる。 | 3 | |
| | | | 2 セッティングタイムトライアル | セッティング回の復習を元に、より早くきれいにセッティングできる。 | | |
| | | | 3 ドラムの音作り | ドラムの音のエフェクトを駆使して音作りできる。 | | |
| 11 | スタジオの基本復習 | スタジオシステムの確認 | 1 CD試聴会 | 教員、学生とも良い音のCDをお互いに試聴し、プレゼンできる。 | 3 | |
| | | | 2 ミキサー卓全般の確認 | デジタル、アナログ両方の概念、操作方法が解る。 | | |
| | | | 3 スタジオの構造 | もし自分がスタジオを建てたなら？スタジオの構造、各機器の金額、立地など条件がわかる。 | | |
| 12 | コンプレッサーの理解 | コンプレッサーの使い方の理解 | 1 エフェクター 1 | 多用なエフェクターを使った音作りができる。 | 3 | |
| | | | 2 コンプレッサー・リミッター研究1 | コンプレッサーなどダイナミクス系のエフェクターが使えるようになる。 | | |
| | | | 3 コンプレッサー・リミッター研究2 | 音源を元に様々な音を作ることができる。 | | |
| 13 | リバーブの理解 | リバーブの活用方法の理解 | 1 リバーブ研究1 | リバーブや空間系のエフェクターの使い方がわかる。 | 3 | |
| | | | 2 リバーブ研究2 | サンプリング音源を元に様々なリバーブの音を聞き分けることができる。 | | |
| | | | 3 エフェクター 2 | 記載以外のよく使われるエフェクターについても使えるようになる。 | | |
| 14 | エフェクターの種類 | 様々なエフェクターの種類理解 | 1 エフェクター 3 | 多用なエフェクターを使った音作りができる。 | 3 | |
| | | | 2 エフェクター 4 | 各エフェクターの特徴を知る。 | | |
| | | | 3 MIXDOWN | 各楽器音の関係を考慮しながらミックスダウンできる。 | | |
| 15 | 発表と視聴 | 作品の発表 | 1 文化祭に向けて | レコーディングエンジニア専攻らしいイベント、発表を検討する。 | 3 | |
| | | | 2 教育成果発表会 (文化祭に向けて2) | レコーディングエンジニア専攻らしいイベント、発表の準備。 | | |
| | | | 3 まとめと試聴 | 前期のまとめ、各自も持ち寄った音源、音の取り方についてプレゼン、試聴。 | | |

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等